

は共存できるのです。ところが、韓国は外圧によつて分断され植民地になった。その後の三年間、「占領民主主義」の洗礼をも受けなかったのです。占領軍にはまったく準備がなく、三年間を場あつりのな方針でおしました。この三年間に、左右の対立が非常に厳しくなつたのです。そ建領係領政爾策日本とおなじようなものでしたら、その後の韓国の民主化や議会民主主義偽よ

の対立が非常に厳しくなつたのです。

そ建領係領政爾策日本とおなじようなものでしたら、

偽よ

その後の韓国の民主化や議会民主主義偽よ

なくて、人間関係にかかわっていません。その人間関係によって、meanの意味がちがつ。それは中庸のダイナミズムそのものです。非常に動的な均衡ですね。国境、歴史によって、人類が体験、実践によって積み重ねてきた一つの規範でありゴールデン・ルール（黄金律）です。

これは一つの例ですけれども、このように東洋と西洋の思想を比較し分析する能力のある知識人が、地球上のどこにいるかということ、繰り返しになります。日本と韓国です。中国にもいずれでくるはずです。西洋の知識人が見逃している面を普遍的な視点から研究し、その成果を世界に向けて発信する、そのイニシアチブを日本の知識人がとってほしい。そうすれば、韓国の知識人も中国の知識人もかならず応援にきます。

蓮實 世界に向けた視点をもった人たちが集まるということですね。ただ、現在のような世界的状況をつくりだしたのは、日本人も韓国人も含むアジア人が、知的に怠慢であったからではないでしょうか。

崔 おっしゃるとおりです。怠慢か、あるいは鋭い問題意識がなかった。十分な知識をもっていないながらも、どういう形でメッセージを送るかという問題意識の欠如もあったと思います。

蓮實 これからは、いいことを考えているだけでは駄目で、それをどのようなメッセージとして世界に発信するかという戦略が大事ですね。

過去の記憶と生産的な未来

蓮實 たとえば二一世紀のことを考えるときに、日本ではしばしば二〇世紀に日本が犯してきたいくつかの問題を記憶から遠ざけようとする傾向があります。さらには、過去を捏造しようとする動きさえあります。このようなことは日本だけではなく、たとえば第二次世界大戦後のフランスにも

ば

